

## 2008 年度春季大会専門分科会

### 「CMIP3 マルチ気候モデルにおける大気海洋諸現象の再現性比較」の報告

地球温暖化が大気海洋諸現象の分布や振幅にいかなる変化をもたらすか、より不確実性を低減した情報を取り出すためには、各現象についての気候モデルの性能を知る必要がある。本専門分科会は、その第一歩として IPCC 第 4 次報告書のために集約された WCRP 第 3 次結合モデル相互比較プログラム (CMIP3) のマルチモデル 20 世紀結合実験結果と観測データとの比較解析によって大気海洋諸現象についての気候モデル再現性を検討した研究成果を持ち寄り、個々の現象の再現性およびそれらの相互関係を議論することを趣旨とし、大会 4 日目の午後 B 会場において開催された。

地上気温変動、夏季冬季東アジアモンスーン、台風、熱帯対流活動、ENSO、雲と放射、雲と循環、降水量、梅雨、10 年規模変動、北半球環状モードなどのテーマで、現在気候再現性および将来変化に関して 17 件の研究発表があった。マルチモデルの比較を通じて、単なるモデルの順位づけということだけでなく、諸現象のメカニズムの理解を深めることができることが実感できたセッションであった。また、この問題に対する気象学会会員の関心の高さを反映し、239 席の会場の約 3/4 (200 名弱) の会員の参加により、充実した議論を行うことができた。最終日の午後にも拘わらず最後まで分科会に参加し議論して下さった会員諸氏に感謝します。

コンビーナー：高菺 縁、木本昌秀、中村尚、尾瀬智昭